

## 地区概要

国道482号を弥栄に入ってしばらく北上すると、東の方向に入る谷に芋野地区があります。  
 村の中心を芋野川が流れ、川に沿って上がって行くのと、古い石垣、土壁の家々が立ち並んでいます。  
 地区内の世帯数は111世帯、人口331人、(H24年12月現在)若者の多くは地区外へ勤務していますが、土・日曜日を中心に芋野の肥えた農地で美味しい米作りを行っています。



自主防災会、春祭り、納涼祭、秋祭りなど子どもからお年寄りまで参加して世代間交流を深めています。  
 人と人との絆を大切にしながら、「出来る事は自分たちで」という思いで村づくりを行っています。



秋祭りの引き屋台

### わがふるさとわが誇り

- ・その一 献米
- ・その二 自主防災会
- ・その三 秋祭りの引き屋台

### 地区エピソード

・石上神社  
 毎年4月の第1日曜日に「山ノ神」(子孫繁栄の神事)が執り行われています。  
 昔は、現在の集落の先に村がありました、より開けた現在の位置に移り住んだと考えられます。



石上神社

・曹洞宗石上山安養寺  
 慶安2年(1949年)に建立されました。蔵には、高祖道元の遺書(御遺偈)があります。



石上山安養寺

## ふるさと わがまち わが地域

# 献米 1300年の浪漫 芋野郷

## 歴史を通しての村づくり



祖先の偉業 献米記念碑

### 「献米記念碑」の建立のいわれ

昭和40年4月20日、国立奈良文化財研究所が平城京跡を発掘調査中、平城宮東北部の造酒司の井戸の排水溝の中から長さ33.6cm、幅1.7cmの木簡が発見されました。  
 木簡には、「丹後国竹野郡芋野郷姪部古与曾赤春米5斗」(たにわのくにたけのごおりいものさとうねめこよそあかつきごめ)と書かれてあり、奈良時代、今の弥栄町芋野から送り届けられた貢進米の荷札とわかりました。  
 この木簡の話を知った昭和45年ごろ長楽会(堀江親雄会長)のメンバーである堀江正夫さんが会員に知らせた結果、「私達の祖先が力合せて農地を開拓し、農地が生まれ今の生活がある。この木簡が先祖の偉業を証明してくれた。何か記念に残そう。」と献米記念碑が、昭和51年3月に当時の芋野区(廣谷秀二区長)と長楽会により、建立されました。  
 碑裏には、「祖先の苦勞を思い、碑を建て子孫に伝える」と碑文が刻まれています。



育てた穂を手に



肥えた土地で米づくり

## 弥栄町初の自主防災会

芋野地区では、区民の人命を皆で守ろうと平成20年4月1日に弥栄町で初となる「芋野区自主防災会」を設立しました。  
 会では、防災ニュースを年2回発行し、防災訓練では、隣組単位で消火栓の確認や使用方法を習いました。  
 また、避難場所に集まり丹後大震災の写真展示、消防署よりAEDの使用について研修も行いました。  
 防災会では年齢に関係なく、多くの区民の参加で結束し、有事の際に備えています。

防災訓練の様子



## 赤米の伝承普及を 赤米保存会の活動

赤米の伝承普及を、赤米保存会の活動として行っています。赤米は、古くから芋野地区で栽培されており、その歴史は長いとされています。赤米の栽培には、古くから伝承されている技術があり、その技術を後継者に伝えることが重要です。赤米保存会では、赤米の栽培技術の伝承と普及を目的として、さまざまな活動を行っています。例えば、赤米の栽培体験や、赤米の保存方法の講座などがあります。また、赤米の魅力を広く伝えるために、赤米の産地を訪れる観光客への案内や、赤米の産地をPRするための活動も行っています。赤米保存会の活動を通じて、赤米の伝承と普及が実現し、芋野地区の文化と歴史が後継者に受け継がれることを目指しています。



山や田畑に囲まれ、のどかな風景が広がります。

連絡先  
 芋野区事務所: 平日8:30~12:00  
 Tel 0772-65-2322  
 ☎627-0122  
 京都府京丹後市弥栄町芋野321番地